

石川・三小牛ハバ遺跡

みつこうじ

1 所在地 石川県金沢市三小牛町七字一外

2 調査期間 一九八七年(昭62)四月～十二月

3 発掘機関 金沢市教育委員会

4 調査担当者 南 久和・楠 正勝

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 奈良時代～平安時代前期

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

三小牛ハバ遺跡は尾根に囲まれた平坦地に立地し、標高は一五〇～一七〇m、二面は堀に、他の二面は急な崖に面している。周辺には縄文、奈良、平安時代の遺跡である三小牛さこ山C遺跡があり、ほかにも数カ所で平安時代の遺物が採集されている。遺跡付近では一九五一年に板仏が採集され、一九八七年になって奈良時代後半の銅板鋳出仏と鑑定されている。



(金 沢)

一九八五年、産業廃棄物処分場の建設計画のため分布調査が行われ、その結果三次にわたる本格的な発掘調査を行った。

一九八六年秋から翌年春にかけての第一次調査では、堀尻から墨書土器・彩釉陶器片・布目瓦・転用硯が出土したが、平坦地に設定した十字トレンチからは遺構・遺物とも見るべきものは検出されなかった。

第二次調査では、堅穴住居跡四棟と、「コ」の字型に配置された掘立柱建物八～九棟、及び堀切りを検出した。

木簡はL字形の堀のコーナー部分から三点出土している。伴出遺物には、多数の須恵器(杯・盤・甕・壺・水瓶、浄瓶・鉄鉢形土器・合子・灯明皿・転用灯明皿・転用硯、土師器(未整理)、木器(曲物・下駄・漆塗り盤・盤・高台付碗・盆状木製品・火きり臼・杵・写経用定規・杭他)のほか奈良三彩や墨書土器が出土した。墨書土器は、「三千」または「三千寺」(約一〇点)、「厶」(則天文字の一。「ひと」と読む)、「二」(二点)、「太縄」(「気成」「佐木」「厨」「沙弥」「弥」「沙弥古万呂」「広」(以上各一点)の文字が認められた。その後、一九八八年末に第三次調査が行われたが、遺構・遺物とも見るべきものはない。

本遺跡はごく少量の縄文時代・中世の遺物を除くと、奈良時代から平安時代前期に及ぶ土器の出土が多く、奈良時代後半をピークとした遺跡であると言える。また銅板鋳出仏の出土、「三千」、「三千寺」の墨書土器や、「寺」と墨書された木簡の出土、仏教と関係の

